

い もと ため さぶ ろう
井元為三郎

幸福は我が心にある

—世界に羽ばたいた名古屋輸出陶磁器商の第一人者—



井元為三郎 (1874 ~ 1945)
出典：『中京名鑑』

戦前、陶磁器はわが国の最大の輸出品であった。日本の陶磁器輸出は名古屋が中心地であった。瀬戸や多治見方面から集められた生地を主税町界隈で絵付けされ、名古屋港から輸出された。陶磁器輸出の黄金時代に活躍したのが、井元為三郎(1874~1945)であった。

■井元商店の設立

井元は、1874(明治7)年4月、熱田中瀬町に生まれた。1891(明治24)年、16歳の時陶磁器輸出商の田代商店に入り、神戸支店長になったが、1897(明治30)年、24歳で市内飯田町に井元商店(現井元産業)として独立した。当初瀬戸の生地を仕



創業期の井元商店 出典：『名古屋陶業の百年』1987

入れ、絵付け業者に絵付けを依頼し、輸出業者に販売したが、中央線が多治見まで開通後は仕入れ先を多治見に拡大し、1907(明治40)年、名古屋港の開港後は輸出に力を入れるようになる。

1909(明治42)年9月にサンフランシスコに日本トレーディング商会を設立、1920(大正9)年にはシンガポールに南洋商行を設立し業績を伸ばした。シンガポールでの陶磁器雑貨の売上げは、三井物産、三菱商事を凌いだ。その後も販売拠点をメルボルン、ラングーン、ジャワ等に拡大した。1934(昭和9)年には北区指金町に電気トンネル窯を備えた工場も建設した。



シンガポールに設立された南洋商工 出典：『名古屋陶業の百年』1987

■陶磁器業界での活躍

井元は1909(明治42)年、名古屋陶磁器貿易商工同業組合設立に関わり、1924(大正13)年には第4代組長となり、業界の第一人者となった。1930(昭和5)年、陶工同盟休業問題の解決、組合事務所(名古屋陶磁器会館)の建設、金液関税撤廃の実現など業界の取り纏め役として活躍し、1934(昭和9)年12月には、産業功労賞を受賞している。



景 全・所務事合組業同工商易器磁陶屋古名

名古屋市東区に現存する名古屋陶磁器会館は、名古屋陶磁器業の拠点としてだけでなく、全国陶磁器界の中核機能を果たした。1941(昭和16)年には、古希を祝って井元の寿像が会館内に設置された。寿像は、戦時中の金属供出で失われたが、戦後に再建された。

井元は「幸福は我が心にある」をモットーとし、進取の気象に富み、温厚篤実、業界のまとめ役として難題の解決に取り組んだ。

井元の居宅は、2007(平成19)年に名古屋市に所有権が移り、現在「文化の道 撞木館」として、市民に開放されている。

(浅野伸一)